

宮崎県市町村・地域づくり団体等協働モデル事業

復活！ 神楽そば作り体験事業

一般社団法人 地球のへそ



高原町
takaharu town

事業名：復活！神楽そば作り体験事業

1. 【団体の概要】

名称：一般社団法人地球のへそ

法人設立目的：ゆるやかで温かいひとのつながりと、生きるのに困らない環境がある豊かな過疎地域に暮らす人々が、地域に誇りと愛着を持てるよう働きかけを行い、後世へつないでいくことを目的とし、設立しました。

スタッフ：エンジニア・役場職員など4名

主な事業：学童保育さのっこひろば運営・小水力発電調査事業

2. 【事業の目的、ねらい】

伝統芸能である「神楽」とともに伝承された「神楽そば」。狭野神楽が伝わる狭野地域の狭野小学校では、以前高原高校と共にそばを育て収穫し、そのそばで狭野夜神楽時にそば振る舞いを行っていました。しかし、数年前にその伝統も途絶えてしまい地元に住む人や町外からの見学者からも残念だという話を聞いていました。そこで今回、振る舞いそば活動を子どもたちと共に復活させることで、地域内の世代間交流を活発にし、また狭野地域にすばらしい伝統文化があることを地元の方たちと再認識



しようとして試みました。そして、これらの魅力を町内外に伝えていくために、内側だけの交流ではなくそばの振る舞いという町内外交流を深め外に発信することで、高原町に興味を持ってもらい、観光振興や移住定住に繋がればという思いをこめて、この事業を行う事としました。

3. 【活動内容】

高原町の魅力・地力を再認識するという目標のもと、「そばの振る舞いをする」という活動のみではなく、自分たちでそばを播き、だしとなる鶏を育てるというところから事業に組み込みました。

その際、地域で活躍している方々の教えを得ながら様々な交流を深めていきました。

① そば播き



地元農家さんのご協力を得て、農家さんの畑でそば播き体験を実施しました。

最初は手押しのそば播き機や、三角ホーなどでの昔ながらの道具を使ったの体験の後、参加した子ども達で楽しそうに畑を駆け回りながらのそば播きとなりました。

② 鶏小屋作り・鶏育成



学童保育敷地内にて、神楽そばのだしに使う鶏を育成するための小屋を地元大工さんのご協力を得て子どもたちと共に製作しました。

鶏小屋製作後の鶏育成は、学童保育児童と法人スタッフにて行いました。

鶏を育てるうち、愛着がわいてきた様子でしたが、普段食べている鶏肉とのつながりを伝えるなど、命を学ぶ機会ともしました。

③ そば打ち



播いたそばを収穫・脱穀し、製粉されたそば粉でそば打ちをしました。狭野地区だけでなく県内各所、さらには大阪からお手伝いにお越し頂き、約 250 食分のそばを打ちました。

事前にそば打ちの練習をした子ども達は、当日もそば打ちを頑張っていました。

④ 神楽そば振る舞い



狭野神楽の舞われる前で、神楽そばの振る舞いを実施しました。

振る舞いでも、狭野地区の子どもたち・地元の方・移住者・県内の参加者お手伝いを頂き実施しました。当日は大変寒い中での振る舞いだったこともあり、召し上がった方からは「とても温まりました。おいしかったです。」や「数年前まであった振る舞いを思い出しました、ありがとうございます。」とのお声を頂きました。

4. 【事業の成果、効果】

- ・ 伝統の神楽そばを一から手作り

農業を主産業とする高原町ですが、子ども達が農業に関わる機会は案外少ないものです。

今回の事業では、そばや鶏など材料となる生き物を一から育てることで高原町の資源の豊かさを、地元のプロを通して子ども達に再確認してもらうことができました。

また、そうした事業工程をポスターで展示することで、狭野神楽を訪れた方々に広くPRできたと考えます。

- ・ 移住者、町外在住者の参加

今回の事業では、振る舞い準備から設営、振る舞いに至るまで、狭野の住民だけでなく、大阪からの移住者や県内各所から参加頂き、地域住民との交流を深め、高原町の素晴らしさを知って頂く機会となりました。

- ・ プレスリリース

振る舞いの様子を南日本新聞に取り上げて頂き、県外へもPRすることができました。

5. 【まとめ】

今回この事業代表である私、北原が東京からの移住者ということもあり、何もわからない所からスタートし右往左往しながらも、様々な方々からご意見やご支援を頂き、無事に振る舞いを実施することができました。

まず、事業のスタート時から狭野小学校「おやじクラブ」の現役とOBの方々から方向性を示していただき、地域の区長方には振る舞いの際しての場所の選定から地域の方へのアナウンスなどをしていただきました。また狭野神楽保存会の方々には最後の撤収など手伝いをして頂き、改めて狭野地域のすばらしさを実感した事業となりました。

この振る舞い活動を今回だけで終わらせるのではなく、今後も地域の魅力を発見する、町外へアピールするためのツールとして、また地元の人たちがより幸せになる取り組みとして、「地球のへそ」で来年・再来年への継続事業として取り組んでいきたいと思っております。